



ALSO プロバイダーコース岩手医科大学@盛岡

令和元年 11 月 23 日、24 日

我々はいつも、『お産が安全に終わること』を願っています。しかし、時として出産は母体・胎児・新生児にとって命の危険を伴うこともまた事実です。日本の周産期死亡率・母体死亡率は世界トップレベルですが、それでも国内で毎年、胎児死亡・新生児死亡のみならず、約 50 人の妊婦さんが亡くなっています。広大な県土をもつ岩手県においても、妊婦さんが夫や子供、時には生まれたばかりの新生児を残して命を落としているのです。我々は常に、一人たりとも死なせない・絶対に死なせないという、強い意識を持って現場で戦っています。そのためにも、マンパワー不足が明らかな産婦人科医師のみに負担を強いることには無理があることも明らかになってきました。

Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースです。1991年に ACLS と ATLS に基づいて、ウィスコンシン州のプライマリケア医師二人が ALSO を考案、1993年にコース権利は American Academy of Family Physicians (AAFP - 米国家庭医学会) によって認可され、現在全米ではほとんどの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーが ALSO の受講を義務づけられています。また米国の家庭医レジデンシープログラムのほとんどが ALSO をプログラムに導入しています。世界的にも普及活動が行われており、50カ国以上でプロバイダーコースが開催され、10万人以上が ALSO コースを完了しています。

コースは、レクチャー、症例検討、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップからなります。ALSO は LDR における産科の救急的対処がメインですが、その他に出産前のリスク評価やチーム医療・連携の重要性を強調しております。プロバイダーコースは二日間からなり、プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合は、参加者は5年間有効の認証を受けることができます。

日本では 2008 年 11 月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、現在までにほぼ全ての都道府県で、8000 名以上が ALSO コースを修了しています。岩手県においても 2015 年 2 月に岩手医大で初開催され、今回が 4 回目となります。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、麻酔科医、助産師、看護師そして医学部学生・助産学生などであり、現在あるいは近未来の日本の周産期医療体制において、分娩や周産期救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加しています。周産期医療は、産婦人科医だけで

はすでに成り立たない状況になりつつあることは周知の事実です。日本全国のすべての地域でできるかぎり同じレベルの周産期医療を維持するには、周産期医療に関わりたいという志を持った人たちをトレーニングする場を多く提供し、最低限必要な医療チーム体制をあらゆる医療圏に確保する必要があります。まさにその足がかりとなるトレーニングコースが **ALSO** です。ACLSを受講したメンバーが多い救急外来においては、流れるようなチーム医療で心肺蘇生が行われています。**ALSO** コースにより産婦人科医のみならず助産師・看護師・救急医といった周産期プロバイダーが共通の言語を持ち協力し緊急事態に対応し、母児を適切に救命できる未来を願ってやみません。

～母児を適切に救命できる未来のために～

ALSO-Japan

第4回 ALSO プロバイダーコース 岩手医科大学@盛岡

主催：岩手医科大学産婦人科

共催：NPO 法人周産期医療支援機構（OPPIC）

開催場所：岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター

岩手県紫波郡矢巾町医大通1丁目1番1号

019-651-5111(内線 5565・5564)

(担当者：岩手医科大学産婦人科・金杉知宣)

日時：令和元年11月23日(土)、24日(日)

申し訳ありませんが募集は岩手県内・岩手医大関連病院内で行います。

誠の精神に基づく、誠の医療の実践

いま、患者本位の“人”を診る医療へ



岩手医科大学附属病院